

## 序文

Atmel® QT6 Xplained Proキットは周辺機能接触制御器(PTC:Peripheral Touch Controller)単体部を使って相互容量接触表面の評価を許すXplained Pro拡張基板です。このキットはどの外部部品の必要もなしにPTC用の容量性接触表面解決策の設計がどれ位簡単かを示します。キットは10×10接触表面を持つ1つの基板を含みます。

## 目次

---

序文	1
1. 序説	3
1.1. 特徴	3
1.2. キット概要	3
2. 開始に際して	3
2.1. Atmel Xplained Pro基盤を調査するための3つの手順	3
2.2. Xplained Pro MCU基板へのQT6 Xplained Pro接続	3
2.3. 設計資料と関連リンク	4
3. Xplained Pro	4
3.1. ハードウェア識別システム	5
3.2. 標準ヘッダとコネクタ	5
3.2.1. Xplained Pro標準拡張ヘッダ	5
4. ハードウェア使用者の手引き	6
4.1. ヘッダとコネクタ	6
4.1.1. QT6 Xplained Pro拡張ヘッダ	6
4.1.2. 周辺機能	7
5. ハードウェア改訂履歴と既知の問題	7
5.1. 製品IDと改訂の識別	7
5.2. 改訂4	7
6. 文書改訂履歴	7
7. 評価基板/キット重要通知	7

## 1. 序説

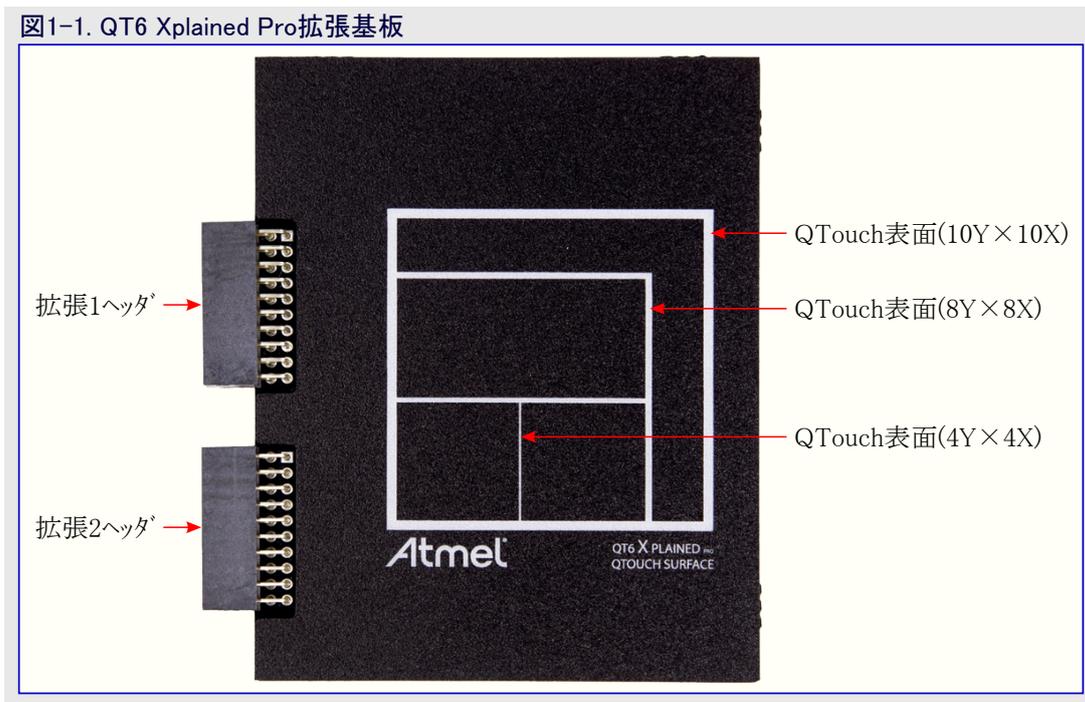
### 1.1. 特徴

- QTouch®
  - 10×10相互容量配列
- Xplained Proハードウェア識別システム

### 1.2. キット概要

Atmel QT6 Xplained Pro拡張は組み込み周辺機能接触制御器(PTC:Peripheral Touch Controller)付きMCUを特徴とするXplained Pro MCU基板用に特に設計されています。

この拡張基板は相互容量動作でPTC単位部の接触機能を調査するのに使うことができます。



## 2. 開始に際して

### 2.1. Atmel Xplained Pro基盤を調査するための3つの手順

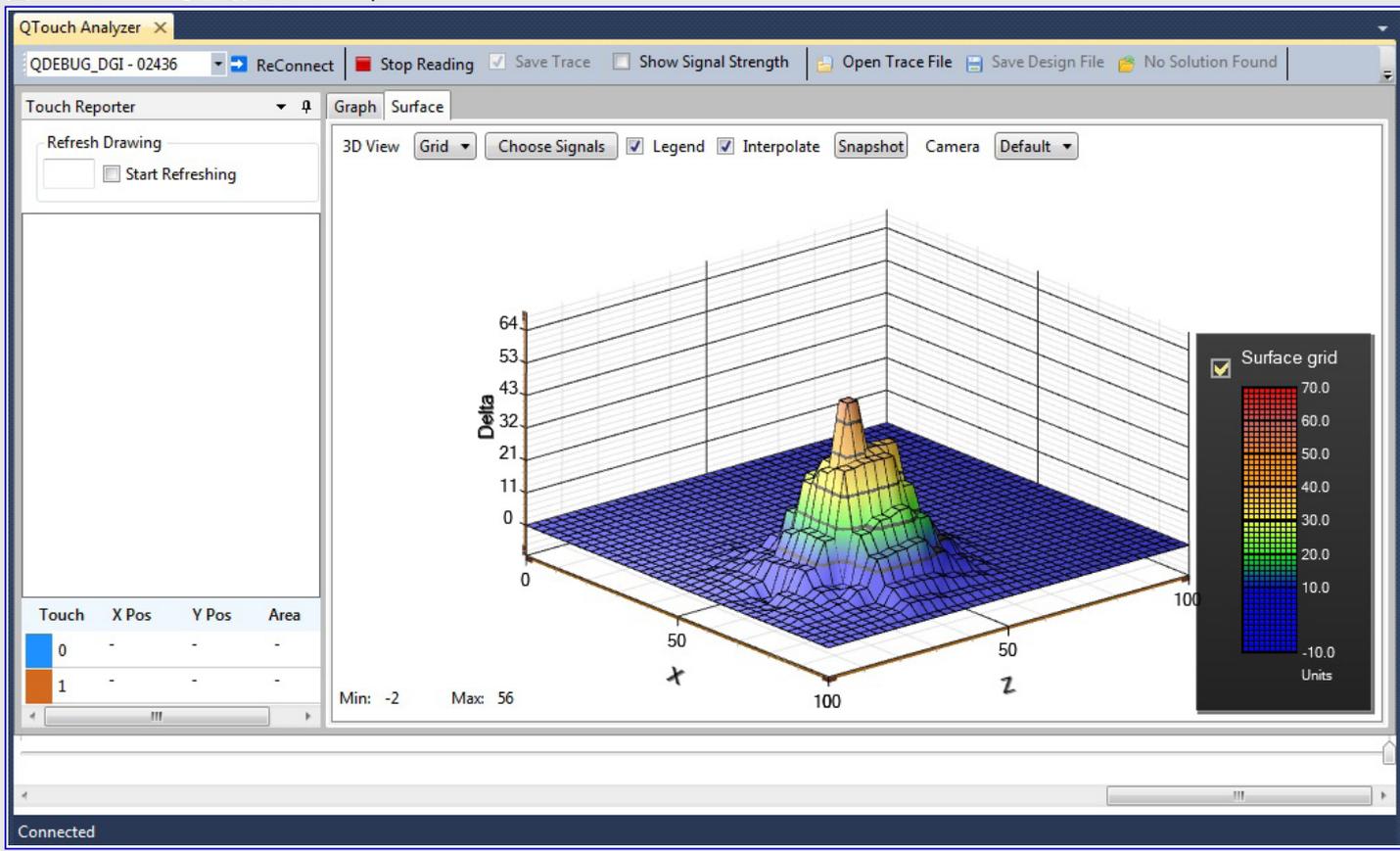
1. [Atmel Studio](#)をダウンロードしてインストールしてください。
2. Atmel Studioを開始してください。
3. QT6 Xplained ProをXplained Pro MCU基板に接続し、Xplained Pro MCU基板上の**DEBUG USB**ポートにUSBケーブルを接続してください。

### 2.2. Xplained Pro MCU基板へのQT6 Xplained Pro接続

Atmel QT6 Xplained ProはXplained Pro MCU基板上の**EXT1**と**EXT2**と記されたヘッダに接続されるように設計されています。

接触応用の開発は[Atmel Studio](#)の拡張展示室から[Atmel QTouchライブラリ](#)と[Atmel QTouch構成部](#)をダウンロードしてインストールする必要があります。

図2-1. QTouch分析器でのQT6 Xplained Pro



一旦Xplained Pro MCU基板が給電されると、緑の電源LEDが点灯し、Atmel StudioはどのXplained Pro MCUと拡張基板が接続されたか自動検出します。Atmel Studioはデータシートとキット資料のような関連情報を提示します。Atmel Studioでキット先頭頁はキット用のAtmelソフトウェア枠組み(ASF:Atmel Software Framework)応用例を開始する任意選択も持ちます。目的対象デバイスが基板の組み込みデバッグによって書き込みとデバッグが行われます。外部の書き込み器やデバッグ ツールが必要とされません。

### 2.3. 設計資料と関連リンク

以下の一覧はQT6 Xplained Proに対して最も関連する資料とソフトウェアへのリンクを提供します。

- Xplained Pro製品(注1) - Atmel Xplained ProはAtmel AVR® 8ビットと32ビットのマイクロ コントローラ用の小さくて使い易い評価キットの系列です。これは各種MCU系統の機能と能力の評価と実演のための安価なMCU基板の系統から成ります。
- QT6 Xplained Pro使用者の手引き(注2) - この使用者の手引きのPDF版
- QT6 Xplained Pro設計資料(注3) - 回路図、部品表、組立図、3D図、各層図などを含む一括
- Atmel QTouchライブラリ(注4) - Atmel AVR®とARM®に基づくマイクロ コントローラを支援するQTouchライブラリ
- Atmel QTouch構成部(注5) - 容量性釦、摺動子、輪の応用を開発するための道具
- Atmel Studio(注6) - Atmelマイクロ コントローラ用のC/C++とアセンブラのコードを開発するための無料Atmel IDE

- 注: 1. <http://www.atmel.com/XplainedPro>  
 2. [http://www.atmel.com/Images/Atmel-42394-QT6-Xplained-Pro\\_User-Guide.pdf](http://www.atmel.com/Images/Atmel-42394-QT6-Xplained-Pro_User-Guide.pdf)  
 3. [http://www.atmel.com/Images/Atmel-42394-QT6-Xplained-Pro\\_User-Guide.zip](http://www.atmel.com/Images/Atmel-42394-QT6-Xplained-Pro_User-Guide.zip)  
 4. <http://www.atmel.com/tools/QTTOUCHLIBRARY.aspx>  
 5. [http://www.atmel.com/tools/atmel\\_qtouch.aspx](http://www.atmel.com/tools/atmel_qtouch.aspx)  
 6. <http://www.atmel.com/atmelstudio>

### 3. Xplained Pro

Xplained Proは完全なAtmelマイクロ コントローラの体験を提供する評価基盤です。この基盤はAtmelソフトウェア枠組み(ASF:Atmel Software Framework)ドライバと実演コードを持ち、データの流れやより多くを支援するAtmel Studioに統合されるマイクロ コントローラ(MCU)基板と拡張基板の一連の系統から成ります。Xplained Pro MCU基板は標準化されたヘッダとコネクタの一式を通して接続される広範囲なXplained Pro拡張基板を支援します。各拡張基板はXplained Pro MCU基板にどの基板が実装されたかを一意に識別するために識別(ID)チップを持ちます。この情報はAtmel Studioを通して関連する使用者の手引き、応用記述、データシート、コード例を提示するのに使われます。利用可能なXplained Pro MCUと拡張基板はAtmelウェブ店舗1(<http://store.atmel.com/CBC.aspx?q=c:100113>)で購入することができます。

### 3.1. ハードウェア識別システム

全てのXplained Pro互換拡張基板は実装されたAtmel ATSHA204A暗号認証(CryptoAuthentication™)チップを持ちます。このチップはその名前といくつかの付加的データと共に拡張を識別する情報を含みます。Xplained Pro拡張基板がXplained Pro MCU基板に接続されると、情報が読まれてAtmel Studioに送られます。Atmel Studioに取り付けられたAtmelキット拡張は関連する情報、コード例、関連資料へのリンクを与えます。「表3-1. Xplained Pro IDチップ内容」は内容例と共にIDチップに格納されたデータ領域を示します。

表3-1. Xplained Pro IDチップ内容

データ領域	データ型	内容例
製造者	ASCII文字列	Atmel'¥0'
製品名	ASCII文字列	Segment QT6 Xplained Pro'¥0'
製品改訂	ASCII文字列	02'¥0'
製品通番	ASCII文字列	1774020200000010'¥0'
最小電圧 [mV]	uint16_t	3000
最大電圧 [mV]	uint16_t	3600
最大電流 [mA]	uint16_t	30

### 3.2. 標準ヘッダとコネクタ

#### 3.2.1. Xplained Pro標準拡張ヘッダ

全てのXplained Proキットは1つ以上の2列20ピン100mil(2.54mm)拡張ヘッダを持ちます。Xplained Pro MCU基板は雄ヘッダを持つ一方でXplained Pro拡張はそれらの雌の対応物を持ちます。全てのピンが常に接続される訳ではないことに注意してください。けれども、接続された全てのピンは「表3-2. Xplained Pro拡張ヘッダ」で定義されるピン配列記述に従います。拡張ヘッダは様々なXplained Pro拡張をXplained Pro MCU基板へ接続すると、Xplained Pro基板上の目的対象マイクロコントローラのピンを直接的にアクセスするのに使うことができます。

表3-2. Xplained Pro拡張ヘッダ

ピン番号	名前	説明
1	ID	拡張基板上的IDチップへの通信線
2	GND	接地
3	ADC(+)	A/D変換器、或いは差動ADCの正部
4	ADC(-)	A/D変換器、或いは差動ADCの負部
5	GPIO1	汎用入出力
6	GPIO2	汎用入出力
7	PWM(+)	パルス幅変調、或いは差動PWMの正部
8	PWM(-)	パルス幅変調、或いは差動PWMの負部
9	IRQ/GPIO	割り込み要求線と/または汎用入出力
10	SPI_SS_B/GPIO	SPI用従装置選択と/または汎用入出力
11	TWI_SDA	2線インターフェース用データ線。常に実装され、バス型です。
12	TWI_SCL	2線インターフェース用クロック線。常に実装され、バス型です。
13	USART_RX	万能同期/非同期送受信器の受信線
14	USART_TX	万能同期/非同期送受信器の送信線
15	SPI_SS_A	SPI用従装置選択。可能なら一意であるべきです。
16	SPI_MOSI	直列周辺インターフェースの主装置出力従装置入力線。常に実装され、バス型です。
17	SPI_MISO	直列周辺インターフェースの主装置入力従装置出力線。常に実装され、バス型です。
18	SPI_SCK	直列周辺インターフェース用クロック。常に実装され、バス型です。
19	GND	接地
20	VCC	拡張基板用電力

## 4. ハードウェア使用者の手引き

### 4.1. ヘッドとコネクタ

#### 4.1.1. Xplained Pro標準拡張ヘッド

QT6 Xplained Proはシルク スクリーンでEXT1とEXT2と記された2つの5頁でのXplained Pro標準拡張ヘッドを実装します。これらのヘッドはPTC単位部を特徴とするMCUを持つXplained Pro MCU基板にこの基板を接続することを可能にします。拡張ヘッド用ピン配置定義は「表4-1. QT6 Xplained Pro拡張ヘッド1」と「表4-2. QT6 Xplained Pro拡張ヘッド2」で見ることができます。

表4-1. QT6 Xplained Pro拡張ヘッド1

EXT1のピン	機能	説明
1	ID	IDチップへの通信線
2	GND	接地
3	Y1	Y線1
4	Y2	Y線2
5	Y3	Y線3
6	Y4	Y線4
7	N.C.	(未接続)
8	N.C.	(未接続)
9	Y5	Y線5
10	Y6	Y線6
11	N.C.	(未接続)
12	N.C.	(未接続)
13	N.C.	(未接続)
14	N.C.	(未接続)
15	Y7	Y線7
16	Y8	Y線8
17	Y9	Y線9
18	T10	Y線10
19	GND	接地
20	N.C.	(未接続)

表4-2. QT6 Xplained Pro拡張ヘッド2

EXT2のピン	機能	説明
1	N.C.	(未接続)
2	GND	接地
3	X1	X線1
4	X2	X線2
5	X3	X線3
6	X4	X線4
7	X5	X線5
8	X6	X線6
9	X7	X線7
10	X8	X線8
11	N.C.	(未接続)
12	X10	X線10
13	N.C.	(未接続)
14	N.C.	(未接続)
15	X9	X線9
16	N.C.	(未接続)
17	N.C.	(未接続)
18	N.C.	(未接続)
19	GND	接地
20	N.C.	(未接続)

## 4.1.2. 周辺機能

### 4.1.2.1. 接触感知部

QT6 Xplained Proは接触パッドとして使うことができる10×10相互容量接触表面感知器を持ちます。代わりに、必要とされるX線とY線を構成設定することにより、接触感知器は4×4、4×8、8×8配列の接触パッドを有効にするように構成設定することができます。

接触パッドの視覚的反応はXplained Pro基板をQTouch分析器に接続することによって得ることができます。

**注意:** このキットは組み込みPTC付きMCUを持ち、拡張の全ての感知器を接続するピン配列に一致するXplained Pro MCU基板だけによって支援されます。現在支援されるMCU基板はSAM D20 Xplained ProとSAM D21 Xplained Proです。

## 5. ハードウェア改訂履歴と既知の問題

### 5.1. 製品IDと改訂の識別

Xplained Pro基板の改訂と製品識別子は、Atmel Studioを通して、またはPCBの裏側の張り紙を見ることによる2つの方法で見つけることができます。

Xplained Pro MCU基板がAtmel Studioが走行しているコンピュータに接続されることにより、情報ウィンドウが飛び出ます。キット詳細下で一覧にされる通番の最初の6桁が製品識別子と改訂を含みます。接続されたXplained Pro拡張基板についての情報もAtmelキットウィンドウで現れます。

同じ情報がPCBの裏側の張り紙で見つけることができます。殆どのキットはA09-**nnnnrr**として平文で識別子と改訂を印刷し、ここでの**nnnn**は識別子で、**rr**は改訂です。制限された空間の基板は通番文字列を含むQR符号だけの張り紙を持ちます。

通番文字列は以下の形式を持ちます。

```
“nnnnrrssssssss”  
n = 製品識別子  
r = 改訂  
s = 通番
```

QT6 Xplained Pro用の製品識別子は2443です。

### 5.2. 改訂4

QT6 Xplained Pro(2443)の改訂4は初回公開版で、既知の問題はありません。

## 6. 文書改訂履歴

文書改訂	日付	注釈
42394A	2015年1月	初版文書公開

## 7. 評価基板/キット重要通知

この評価基板/キットは**工作、開発、実演を促進する、または評価目的だけの使用を意図されています**。これは完成された製品ではなく、(基板/キットに於いて他の方法で注記されるかもしれないのを除き)、リサイクル(WEEE)、FCC、CE、またはULの電磁適合性に関連する制限や指令なしで完成製品へ応用できる、含めることの何かまたは何れかの技術的または法律上の必要条件に(未だ)適合しないかもしれません。Atmelは販売者と更にその先の使用者単独の危険に於いて、全ての障害と共に何の保証もなく、“現状そのまま”でこの基板/キットを供給しました。使用者は商品の適切で安全な取り扱いのために全ての義務と責任を負います。また使用者は商品の使用や取り扱いから起こる全ての請求からAtmelを保護します。製品の開放構造のため、静電放電と他のどんな技術的または法的な利害関係に関して何れか若しくは全ての適切な予防処置を取るの**は使用者の責任です**。

上で述べる保障の範囲までを除き、使用者とAtmelは**間接、特別、付帯的、または必然的な損害に関して互いに責任がないでしょう**。

そのようなAtmelの製品やサービスがあるかもしれない、または使われることに於いて、どんな機械、処理、または組み合わせに関連または網羅するAtmelのどんな特許権や他の知的財産の下でも承諾は全く授けられません。

郵便住所: Atmel Corporation  
1600 Technology Drive  
San Jose, CA 95110  
USA

Atmel®, Atmelロゴとそれらの組み合わせ、Enabling Unlimited Possibilities®, AVR®, QTouch®とその他は米国と他の国に於けるAtmel Corporationの登録商標または商標です。ARM®はARM Ltd.の登録商標です。他の用語と製品名は一般的に他の商標です。

**お断り:** 本資料内の情報はAtmel製品と関連して提供されています。本資料またはAtmel製品の販売と関連して承諾される何れの知的所有権も禁反言あるいはその逆によって明示的または暗示的に承諾されるものではありません。Atmelのウェブサイトに表示する販売の条件とAtmelの定義での詳しい説明を除いて、商品性、特定目的に関する適合性、または適法性の暗黙保証に制限せず、Atmelはそれらを含むその製品に関連する暗示的、明示的または法令による如何なる保証も否認し、何ら責任がないと認識します。たとえAtmelがそのような損害賠償の可能性を進言されたとしても、本資料を使用できない、または使用以外で発生する(情報の損失、事業中断、または利益と損失に関する制限なしの損害賠償を含み)直接、間接、必然、偶然、特別、または付随して起こる如何なる損害賠償に対しても決してAtmelに責任がないでしょう。Atmelは本資料の内容の正確さまたは完全性に関して断言または保証を行わず、予告なしでいつでも製品内容と仕様の変更を行う権利を保留します。Atmelはここに含まれた情報を更新することに対してどんな公約も行いません。特に別の方法で提供されなければ、Atmel製品は車載応用に対して適当ではなく、使用されるべきではありません。Atmel製品は延命または生命維持を意図した応用での部品としての使用に対して意図、認定、または保証されません。

**安全重視、軍用、車載応用のお断り:** Atmel製品はAtmelが提供する特別に書かれた承諾を除き、そのような製品の機能不全が著しく人に危害を加えたり死に至らしめることがかなり予期されるどんな応用(“安全重視応用”)に対しても設計されず、またそれらとの接続にも使用されません。安全重視応用は限定なしで、生命維持装置とシステム、核施設と武器システムの操作の装置やシステムを含みます。Atmelによって軍用等級として特に明確に示される以外、Atmel製品は軍用や航空宇宙の応用や環境のために設計も意図もされていません。Atmelによって車載等級として特に明確に示される以外、Atmel製品は車載応用での使用のために設計も意図もされていません。

© HERO 2020.

本使用者の手引きはAtmelのQT6 Xplained Pro使用者の手引き(改訂42394A-01/2015)の翻訳日本語版です。日本語では不自然となる重複する形容表現は省略されている場合があります。日本語では難解となる表現は大幅に意識されている部分もあります。必要に応じて一部加筆されています。頁割の変更により、原本より頁数が少なくなっています。

必要と思われる部分には( )内に英語表記や略称などを残す形で表記しています。

青字の部分はリンクとなっています。一般的に赤字の0,1は論理0,1を表します。その他の赤字は重要な部分を表します。